

藤村女子中学・高等学校を取材

経済教育学会小岩利夫会員が理事をされている藤村女子中学・高等学校を取材しました。高橋あゆち理事長、廣瀬真奈美校長、小岩会員（理事）がインタビューに応じてくださいました。

藤村女子中学・高等学校は東京都武蔵野市吉祥寺に位置しています。教育においても吉祥寺地域との連携が進んでいました。吉祥寺の町を教育の舞台にできる数少ない学校の一つで生徒さんたちは吉祥寺で活発に活動を行っていました。

地域との連携では具体的には次のような試みを行っているとのことでした。

1. キャリア教育（中学1年生と2年生）

1年生では町の病院、商店、警察などを訪問し、それぞれの職業についてインタビューをし、職業の概要について学んでいます。2年生では各職場体験（犬のトリミング、東急百貨店、八百屋など）をし、仕事の内容を実際に学んでいます。

2. 各お祭り参加

地元の桜まつり、音楽祭、夏まつり、薪能（たきぎのう）、秋まつり、クリスマスのイルミネーション点灯式などに参加しています。

夏まつりでは理事長が実行委員長を務めていました。秋まつりでは生徒たちが実際に神輿を担いだりするが、やはり直接参加により高揚感が高まるそうです。薪能では生徒たちがチケットのもぎりを行いました。イルミネーション点灯式ではハンドベルの演奏を行いました。

3. プロサッカーの協力

プロのサッカーチーム「東京武蔵野ユナイテッドFC」と協定を結び、授業に協力をいただいています。

・公式試合のプロデュース

公式戦 1 試合についてのプロデュースを生徒たちが任されました。観客に若い女性が少ないため、生徒たちの発想で若い女性を集めてほしいからです。生徒たちの考案で、試合前に子どもたち対象のミニ運動会、スタンプラリーを実施しました。

・公式グッズの開発

生徒が街頭インタビューを行いタオルマフラーを考案しました。実際公式グッズとして販売されています。

・文化祭での招待

文化祭ではトークショーやミニゲームで選手たちに登壇いただいています。

4. 地元での貢献

- ・Tシャツやカバンのデザインを自分たちで行い、実際吉祥寺のユニクロで販売してもらいました。生徒たちの意識が高まると同時に責任感が生まれる効果がありました。
- ・地元の商店についての宣伝を企画し実行しています。生徒自ら商店に連絡し、インタビュー、チラシ作り、動画作成を行っています。

取材の感想

日本で一番住みやすい街「吉祥寺」に位置するだけあり、生徒たちも誇りを持ちながら活動しているように思えた。街の人たちの協力だけでなく、その誇りがこれだけ多くの幅広い活動を可能にしていると思われる。本インタビューを通して、教育では、地元への誇りがもっとも重要な要素の一つであることを目の当たりにした。

(水野勝之)



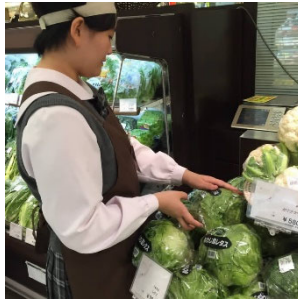
(左) クリスマスイルミネーション点灯式 (児童文化部ハンドベル演奏)

(右) サッカーの試合をプロデュース (ボールパーソン)



(左) サッカーの試合をプロデュース (ハーフタイムショー)

(右) フードバンク



(左) ふじみつ (右・左上) 中学職場体験 (東急百貨店吉祥寺店)
(右・右上) 中学生職場体験 (ユニクロ吉祥寺店)
(右・左下) 夏まつり縁日 (クッキング部) (右・右下) 秋まつり (神輿)



(左) ユニクロ (Tシャツ) (右) ユニクロ (カバン)



(左) 東京武蔵野ユナイテッドFC 調印 (中) 武蔵野FC タオルマフラー
(右) 吉祥寺薪能